

## 令和 2 年度シラバス

教科名	数学	科目名	数学 I	履修学年	1 年生	履修形態	必修
単位数	4 単位	時 数	140 時間 (50分授業)	担当者名	西村諭・本間拓朗		

教科書	数研出版 『改訂版 新 高校の数学 I 』	副教材	数研出版 『書き込み式シリーズ【基本】教科書傍用 ブラクティスノート数学 I 』
-----	--------------------------	-----	--

学習目標	数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
指導の重点	①基本事項の習得を重視し、基本的な課題に多く取り組むことで、特に基本的な計算技術の習得を目指す。 ②定期考査、学期はじめの課題考査を通じて学習事項の定着を確認し、弱点の補強を図る。 ③週末課題を実施し、家庭学習の習慣を確立させ、計画的な学習を支援する。 ④『学び合い』による学習を取り入れ、学習事項の定着徹底を行う。

学期	考査	単 元	時数	学 習 内 容	評価の観点			
					関	思	技	知
第 1 学期	中 間	第 1 章『数と式』	17 6 3	式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 第 1 章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、計算の工夫をすることで、数学のよさを認識する。	○	○	○	○
		第 1 節 数と式の計算						
		第 2 節 1次不等式						
	期 末	第 2 章『2次関数』	13 11	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
第 2 学期	中 間	第 2 節 2次関数の値の変化	7	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。	○	○	○	○
		第 3 章『図形と計量』	9 10					
		第 1 節 三角比						
	期 末	第 2 節 三角形への応用	20 4	第 3 章で学んだ内容に関する課題について主体的に学習し、初等幾何を用いて解く別解を考え、多角的に問題にアプローチする。	○	○		

第 3 学 期	学 年 末	第4章 集合と命題	20	数を実数まで拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解する。	○	○	○	○
		第5章 データの分析	20	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○	○	○	○

合計 140 時間 (50 分授業)

※ 評価の観点 関：関心・意欲・態度 思：思考・判断・表現  
技：技能 知：知識・理解

(評価の観点)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評 価 の 観 点	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断できる。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数と式、2次関数、図形と計量及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習活動への取り組み 課題・提出物の状況 (ノート、プリント等)	定期考査 課題・提出物の状況 (ノート、プリント等)	定期考査 小テスト 課題・提出物の状況 (ノート、プリント等)	定期考査 小テスト 課題・提出物の状況 (ノート、プリント等)

担当者から一言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は習熟度別のクラス編成を行い a クラス、b クラスの2展開で行う。</li> <li>・授業での説明をしっかりと聞き、配布するプリントに必要な事項をしっかりと書き込んで、課題が解決出来るように協力して取り組むこと。</li> <li>・授業での態度、提出物の提出状況や取組状況が成績に大きく影響する。</li> </ul>
---------	--